

地域と大学

第46号

Newsletter No.46, Education Center for Regional Development

伊豆半島ジオパークと静岡大学

未来社会デザイン機構・副機構長／防災総合センター・副センター長 小山 真人

話は34年前に遡る。1989年7月、伊東市の3kmほど沖合で海底噴火が生じて大騒ぎになった。その後も群発地震は断続的に続き、再噴火のリスクは誰の目にも明らかであった。伊東市も当初は火山防災に対して積極的な姿勢を見せ、火山研究所の誘致や火山博物館設立の構想を立てた。ところが、群発地震のたびに宿泊キャンセルによる観光への打撃が繰り返されるうちに当初の機運はしばみ、防災を口に出すことすらはばかれる雰囲気となってしまった。

伊豆半島は火山がつくった大地であり、その恩恵を生活や観光に活用しながら暮らしてきた土地であるにもかかわらず、当時の人々の火山への関心は乏しかった。住民自身がよく知らないものに対して、土地勘のない観光客がさらに大きな不安や恐怖を感じるのは当然である。まず住民が率先して火山の知識を学び、火山と向き合って生きる方策や文化を構築し、観光と防災の両立を図っていくことが望ましい。そうした考えを筆者は機会あるごとに地元で提示した（注1）。

やがて筆者の考えに賛同する個人や団体が徐々に現れ、2005年に至って当時の伊東市長が火山を活用したまちづくりに賛同する市議会答弁を行った。また、筆者が有識者として関わった委員会によって伊東周辺での噴火リスクに備えた防災計画が2011年に立案され（注2）、噴火時の避難計画も整備された。そうした流れの中で出会ったのが「ジオパーク」の考え方である。

ジオパークとは、価値ある大地と、そこに育まれた景観・生態系・歴史・産業・観光・防災活動・教育・文化を保全しながら、持続的な地域づくりに活用する地域のことである。伊豆半島をジオパークとする筆者の提案（注3）が県知事の目に留まったことから、県と伊豆半島の15市町が一丸となって推進母体をつく

り、筆者も顧問となって継続的な活動を展開した結果、2018年に国内9地域めとなるユネスコ世界ジオパークの認定を受けることができた。

その後、推進母体はさらに強化・法人化され、地域づくり・観光振興・ジオパーク運営を3本柱とした現在の「美しい伊豆創造センター」となった。また、2013年以降の県と市町の地域防災計画には、伊豆半島ジオパークとの連携が明記されるようになった。

こうして過去を振り返ると、筆者が一介の専門家・アドバイザーとして伊豆半島において成し遂げてきたことは、大学による地域貢献そのものであった。筆者はまもなく定年を迎えるが、本学は2020年に伊豆市内に東部サテライトを設立し、2022年には伊豆半島ジオパークとの包括連携協定を結んだ。ジオパークを維持・発展させるためには、文理を問わず、あらゆる分野の専門知識が必要である。伊豆半島に関心をもつ教職員に、ぜひジオパークとの関わりをもってほしいと願う。

（注1）例えば、https://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/Izu/ItoShishi/ShishiKen1.html

https://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/Izu/Izushin/daichi/daichi.html

（注2）http://vivaweb2.bosai.go.jp/v-hazard/L_read/57izu-tobu/57izu-tobu_1m01-L.pdf

（注3）https://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/etc/opinion/jihyo45.html



世界ジオパーク認定証授与式（2018年）右から3人目が筆者

2022年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から翌年3月にかけて14講座の実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止や形式を変えての実施となった講座もありました。

今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結び付けていきたいと思えます。

次年度の公開講座の情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認いただけます。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>



講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	講習料	主催
安心登山のための地図と地図アプリ活用術（初級編）	ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子 教育学部教授・村越 真	5/14(土)9:30～16:00	静岡キャンパス屋内外	スマホやタブレットの地図アプリを利用して登山を楽しみたいと考える市民	40	21	2,000	教
多彩な視点から伊豆を学ぶ・知る [全5回]	未来社会デザイン機構副機構長・小山真人 地域創造教育センター准教授・山本隆太 農学部教授・今泉文寿 人文社会科学部教授・小二田誠二 未来社会デザイン機構講師・内山智尋	5/16(月)、7/19(火)、 9/6(火)、10/25(火)、 2/7(火) 18:00～19:30	対面（東部サテライト）とオンライン（Zoomミーティング）の併用	一般市民	対面 20 オンライン 90	対面 25 オンライン 167 (いずれも延べ)	400	未
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/17、7/5、9/6、11/8、 3/7(火) 13:30～15:30	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	一般市民	10	37 (延べ)	11,000	技
安心登山のための地図と地図アプリ活用術（中級編）	ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子 教育学部教授・村越 真	5/28(土)9:30～16:00	静岡キャンパス屋内外	スマホやタブレットの地図アプリを利用でき、初級編の内容を習得している方	20	13	3,300	教
子どもの「やってみよう」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント	教育学部附属幼稚園副園長・柴田知江 他 教育学部教授・村越 真	6/8(水)9:30～11:30	教育学部附属幼稚園園庭（雨天時：遊戯室）	小学校就学前の子どもの保護者（満2～4歳のお子様の同伴可）	20	12	無料	教
ゲノム解析の最前線へようこそ！ [全3回]	グリーン科学技術研究所特任助教・兼崎 友 グリーン科学技術研究所教授・道羅英夫 技術部技術専門職員・森内良太 技術部技術職員・村野宏樹 技術部技術職員・伊藤由希子 グリーン科学技術研究所研究補佐員・鈴木智子	7/29(金)、8/5(金)、 10/1(土) 10:00～17:00(10/1は 10:00～11:00)	7/29、8/5は対面（静岡キャンパス） 10/1はオンライン（Zoomミーティング）	静岡県内高校生	12	34 (延べ)	無料	グ
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術専門職員・早川敏弘	7/30(土)、31(日) 14:00～17:00	浜松キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）	各回 20	10 (延べ)	無料	工
紅茶作りに挑戦しよう ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	8/2(火)13:30～16:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	小学生とその保護者、一般市民	20	-	1,000	技

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	講習料	主催
体験!大学の化学実験 [全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/20(土)、21(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生、高校生（保護者・引率教員の同伴可）	30	12 (延べ)	無料	グ
愛おしさから読み解くくだもの多様性～園芸と民藝の融合～	農学部教授・松本和浩 (株)シーポイント代表取締役・野澤浩樹	8/27(土)13:30～16:30	健康文化交流館「来・て・こ」	くだもの歴史、品種、味等の多様性またはそれらを活かした地域活性化に興味がある消費者、生産者	30	30	無料	農
コミュニケーションについて考える～言語活動によってつくられる私たちの世界～ [全5回]	国際連携推進機構助教・佐川祥予 教育学部准教授・藤井基貴 情報学部教授・吉田 寛 大阪大学国際教育交流センター教授・義永美央子 大阪大学国際教育交流センター教授・西口光一	9/3(土)・8(木)・10(土)・17(土)・18(日) 13:00～15:00(8日のみ) 18:00～20:00	オンライン (Zoomミーティング)	言語に関心がある一般市民、学生、研究者	15	70 (延べ)	3,100	国
静岡大学キャンパスミュージアム公開講座2022 [全5回] ※10/8を10/16に変更	理学部非常勤講師（ふじのくに地球環境史ミュージアム教授）・岸本年郎 理学部准教授・徳岡 徹 人文社会科学部教授・山岡拓也 理学部准教授・石橋秀巳 技術部・宮澤俊義	10/8・15・22・29、11/5 (土) 10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、小中高生（中学生以下は保護者同伴）	20	51 (延べ)	1,200 (小中高生は無料)	キ
健康・幸福につながる情報学 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンデマンドに変更(延べ人数は10/4～11/4のアクセス数合計)	情報学部教授・桐山伸也 情報学部准教授・梶原千里 情報学部助教・望月美希 情報学部教授・遊橋裕泰	11/12(土) 10:35～12:00	浜松キャンパス	興味のある方ならどなたでも	70	249	無料	情
安心登山のための読図とナビゲーション（中級編）	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング元日本代表選手・小泉成行	12/10(土)9:30～16:30	藤枝市石谷山周辺の里山	下記①～③の条件をすべて満たした方 ①過去に本学開催の公開講座の初級編を受講した方（安心登山のための地図と地図アプリ活用術（初級編）を含む）、又は地形図の基礎知識がある方 ②登山経験者で7km程度を無理なく歩ける方、 ③YouTubeによる事前学習（予習）が可能な方	20	16	3,900	教

[主催欄凡例]

教=教育学部 情=情報学部 工=工学部 農=農学部 グ=グリーン科学技術研究所 キ=キャンパスミュージアム

国=国際連携推進機構 未=未来社会デザイン機構 技=技術部

地域創造学環部門の下半期（10月～3月）事業報告

静岡大学地域創造学環は、2016年4月にスタートした、従来の学部の枠組みを超えた新しい全学学士課程横断型教育プログラムです。幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、地域（フィールド）に飛び出し、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら、地域課題の発見及びその解決に取り組んでいます。2022年度後学期は、1年生も新たなメンバーとして加わり、静岡県内14箇所において、16のテーマのもとでフィールドワークに取り組みました。（各フィールドのテーマは、下記の表をご参照ください）。

新型コロナウイルスの影響により、現地での活動が難しい時期もありましたが、安全マニュアルを作成し対策をした上で、活動を行いました。

なお、2021年度の活動をまとめた『フィールドワーク報告書』を、地域創造学環のホームページに掲載しています。そのほかにも、各フィールドを担当する教員や学生たちの活動を随時紹介するコーナーもあります。ぜひご覧ください。

静岡大学
地域創造学環ホームページ
<https://www.srd.shizuoka.ac.jp>



【2022年度後学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	清水港周辺地域が“つながる”“ひろがる”“にぎわう”活動
静岡市 庵原地区	庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 おまち	おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	私のまちの文芸世界
浜松市 佐久間町	交流の輪づくり～新たな関係構築～
掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもんの里	子どもたちを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクト ～スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進～
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	東伊豆町の新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島ジオパーク	①伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策 ②伊豆半島ジオパークの持続可能な開発と教育（SDGs/ESD）の推進
多世代の居場所づくり	多世代の居場所づくりと防災教育の実践
学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう！

ジオパークフィールド

10月末、ジオパークフィールドでは、新しく配属となった1年生を迎え、2年生、3年生がこれまでのジオパークでの活動経験をもとに、伊豆半島の見どころを紹介しました。その翌日は、函南町にある川の駅伊豆ゲートウェイで開催された「おもしろ自転車レース大会」にサポーターとして参加し、学生達がそれぞれポジションにつき、与えられた仕事をこなしながら、参加する小さな子ども達に優しく話しかける姿や、イベントのサポートを行うシルバーボランティアの方と交流する姿も見られ、それぞれがイベントを通じて何か学びを得ようと努めている様子がうかがえました。また、学生達自身がおもしろ自転車で夢中になって遊ぶ姿も印象的で、改めておもしろ自転車の魅力を感じました。



【ジオリアの展示解説】



【夜の修善寺での足湯】



【おもしろ自転車レース大会の様子】

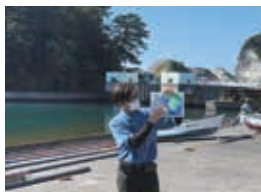


また、11月には防災・保全班による防災イベント、「沢田地区防災まちあるき」に教育班の9名が参加協力しました。このイベントは、西伊豆町の沢田地区をエリアとしてまち歩きをし、防災上で気になる地点や重要な地点をスマホで記録。それと同時に、沢田地区の歴史や土地の成り立ちについて、佐波神社の棟札の歴史的な記録をてがかりにして、本学の小山真人教授、伊豆半島ジオパークガイドの方々の解説を聞きながら、まちなかで地形の観察と読み解きを行いました。

後期から所属となった1年生は参加した小学生と一緒にまちあるきをし、一緒に危険な箇所（崩れそうなブロック塀など）の写真を撮ったり、地域の成り立ちについて学びました。



【スマートフォンで現在地の確認】



【小山教授によるまちの地形の説明】

焼津市浜通り

焼津市浜通りフィールドでは、3年ぶりに開催される「あかり展」に参加しました。我々が「あかり展」に参加するのは4年ぶりになりますが、現在のメンバーは今回初めて参加することとなりました。コロナ禍での開催となったため、検温と消毒が徹底された中での開催となりました。

18時半に焼津市長をはじめとした来賓の皆さんが参加されて点灯式が行われ、「あかり展」が始まりました。点灯式が終わるころには日が落ち、市民の皆さんが描かれた絵が貼り付けられた行灯が映えるとともに、来場される方が徐々に増えていきました。



【あかり展の様子】

来場者の皆さんはそれぞれ行灯を見て写真を撮られたり、行灯がある風景を写真に撮られてました。参加したメンバー学生は「あかり展」の写真を撮るとともに、来場者にインタビューを行い、「あかり展」についての印象をお聞きしました。インタビューに応じてくださった方の多くは、焼津市在住の方々でしたが、皆さん3年ぶりに開催された「あかり展」を待っていた様子でした。

「浜の会」の方々をはじめとした浜通りの皆さんは、コロナ禍での開催を模索されて準備を進められ、感染の拡大や荒天予想を受けて延期を余儀なくされましたが、多くの皆さんが来場されていたことは、今回の開催が成功であったことを物語っていると考えます。開催に至るまでの準備過程を垣間見ながら初めて「あかり展」に参加した学生にとっても印象に残る貴重な経験ができました。



【来場者にインタビューする学生】

地域人材育成・プロジェクト部門の下半期事業報告

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座 「未来につなぐ＜食＞＜環境＞＜健康＞」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	6/11(土)	老いはどこから来るのか?～老化のしくみとその対策～	丑丸 敬史(静岡大学理学部・教授)	90
2	7/2(土)	フェアリーリングの科学とその応用展開 ～人の健康と農業への貢献～	河岸 洋和(静岡大学特別荣誉教授)	79
3	8/11(木祝)	海洋の変容とサクラエビの危機 ～生態系に何が起きているのか?～	鈴木 款(静岡大学創造科学技術大学院・ 特任教授)	74
4	9/10(土)	緑茶とその成分の生理学的機能性 ～肥満予防効果を中心として～	茶山 和敏(静岡大学農学部・准教授)	100
5	10/10(月祝)	スポーツ栄養学はアスリートのための栄養学?	竹下 温子(静岡大学教育学部・准教授)	82

■会場：グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）

第1回・第2回・第4回：交流ホール、第3回・第5回：会議ホール・風

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座 「アフターコロナの社会と暮らしを考える」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/18(火)	私たちの体は微粒子だらけ?! ウィルスサイズの微粒子が健康を支配する	田代 陽介(静岡大学工学部・講師)	32
2	11/15(火)	アフターコロナの家族・子育て・暮らし方考える	白井 千晶(静岡大学人文社会科学部・教授)	30
3	12/20(火)	超高齢社会× デジタル社会をふまえた アフターコロナ時代の高齢者の居場所づくりを考える	須藤 智(静岡大学大学教育センター・准教授)	25
4	1/17(火)	アフターコロナを支えるイノベーション ～イメージセンサにできること～	川人 祥二(静岡大学電子工学研究所・教授)	26
5	2/7(火)	ウィズコロナからアフターコロナへの大学教育	小西 達裕(静岡大学情報学部・教授)	26

■会場：静岡大学浜松キャンパス附属図書館浜松分館（S-Port）3階大会議室

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

主催事業

地元学研修「伊浜の宝 大屋家住宅を活用した拠点づくり ワークショップ」

伊浜の旧家、大屋家が所有する住宅の所有権が伊浜区に移り、自治会ではその活用法を模索しています。この場に大学、学生が参画し、世代や立場を超えた様々な視点で、人々が集い、伊浜区民の誇りをより高める機能を持つ拠点としての活用方法を検討しました。

- ・日時：2022年12月2日（金）、3日（土）
- ・会場：伊浜区センター（賀茂郡南伊豆町）
- ・プログラム：①伊浜地内巡検
②ビーチクリーン
③ワークショップ
- ・参加費：無料
- ・対象：伊浜区住民、教職員、大学生
- ・参加者数：延べ28人

公開シンポジウム「地域課題に取り組むしかけと場づくりを考える～継続と展開に注目して～」

地域の課題を公募しその解決支援を試みる静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」は、地域の様々な主体による働きかけを取り込みながら各地で様々な展開をみせています。様々な地域課題への取り組みを紹介しながら、地域づくりにかかわる新たなしかけや場づくりのあり方を検討しました。

- ・日時：2022年12月27日（火）13:00～16:00
- ・開催方法：オンライン開催（Zoom ミーティング）
- ・プログラム：

[報告1]「松崎町における地域づくりの課題と可能性」

報告：斎藤一憲（松崎町企画観光課）、富川友秀、藤井天汰郎（静岡県立松崎高等学校）

[報告2]「南伊豆町における地域づくりの課題と可能性」

報告：山口一実（南伊豆町地方創生室）、松本恒明（南伊豆町伊浜区長）

[報告3]「東伊豆町における地域づくりの課題と可能性」

報告：荒武優希（ローカルデザインネットワーク）

[報告4]「みんなのチャレンジ基地 ICLa の挑戦」

報告：宇賀田栄次（静岡大学学生支援センター・教授）

[報告5]「子ども達の「できる！」を社会の中に～株式会社こども会議（仮）の挑戦～」

報告：安池中也、泉綾子（株式会社こども会議（仮））

[パネルディスカッション]

パネリスト：報告者

コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創教育センター・教授）

- ・参加費：無料
- ・対象：一般市民、教職員、大学生
- ・参加者数：42人

共催事業

地域づくり人材研修事業 「公民館主事等研修会」

静岡県教育委員会と連携し、社会教育生涯学習事業を展開している指導者への教育研究情報の提供、大学とのネットワークづくり、指導者の資質向上を図り公民館等の事業や活動を効果的に推進することを目的とした研修会を開催しました。

- ・日時：2022年11月30日（水）10:00～16:00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館
- ・プログラム：

[事例報告]

令和3年度優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）受賞

館の取組

- ①「地域文化を伝承する～マップを活用した情報発信～」
中村美咲（静岡市薫科生涯学習センター・センター長）
- ②「持続可能な地域のオアシス」 渡邊泰世志（浜松市北浜南部協働センター・所長）

[行政説明]

「学校・家庭・地域における連携協力体制の推進について」 増田直功（静岡県教育委員会社会教育課教育主幹）、亀田聡（静岡県教育委員会社会教育課教育主査）
[基調講義・実践発表・グループワーク]

テーマ「『地域共生社会』の実現に社会教育が果たす役割」

- ①基調講義「生涯学習・社会教育における国・県の動向」 後藤彰太（静岡県教育委員会社会教育課主任）
- ②実践発表 皆田潔（島根県中山間地域研究センター 企画情報部地域研究科）
- ③グループワーク 進行：後藤彰太

・参加費：無料

・対象：県内公民館主事等関係職員、公民館に類似する施設等関係職員、社会教育関係職員、市町生涯学習関係職員、静岡大学教育学部学生

・参加者数：37人

・主催：静岡県教育委員会、静岡大学地域創造教育センター

企画協力事業

静岡県議会事務局との連携事業 県議会議員と学生による意見交換会

静岡大学地域創造学環・人文社会学部の学生（11名）県議会議員（2名）が参加し、「若者の社会参加・参画を高めるために」をテーマに意見交換会を開催しました。

- ・日時：[第1回] 2022年9月29日（火）15:00～16:30
[第2回] 2022年12月9日（金）14:30～16:00
- ・会場：静岡県庁本館4階会議室

高大連携事業

東伊豆町フィールドワーク

- ・日時：2023年3月10日（金）～12日（日）
- ・会場：東伊豆町役場ほか東伊豆町内
- ・プログラム：
 - ①3/10（金）高校生と大学生の交流会
 - ②3/11（土）グループに分かれてフィールドワーク
 - ③3/12（日）学習成果発表
- ・参加者：成立学園高等学校（東京都）1年生・2年生、静岡大学地域創造学環学生

令和4年度 吉田町大学特別公開講座

「しずおか未来学～今とこれからの社会を考える～」

- ・日時：2022年11月11日（金）、11月25日（金）、
12月2日（金） 19:00～20:30
- ・場所：吉田町中央公民館
- ・プログラム
- ① 11/11（金）「私たちの健康と地球の健康はひとつ（ワンヘルス）～コロナ後のこれからの社会～」
講師：松田 純（静岡大学名誉教授）
- ② 11/25（金）「近代世界の地域紛争～その背景と処方箋～」
講師：大野 旭（静岡大学人文社会科学部・教授）
- ③ 12/2（金）「未来から今を見つめるSDGs～持続可能な社会の実現のために～」
講師：堂園 俊彦（静岡大学サステナビリティセンター・センター長）
- ・受講料：2,000円
- ・受講者数：①19名、②15名、③15名
- ・主催：吉田町教育委員会

静岡市・6大学連携事業 市民大学リレー講座

「SDGs×ウィズコロナ

～ウィズコロナ時代の持続可能な社会を考える～」

- ・日時：2022年9月16日（金）～12月7日（水）18:30～20:00
- ・場所：会場受講（静岡市役所静岡庁舎3階食堂スペース「茶木魚」）とオンライン受講の併用
- ・プログラム
- ① 9/16（金）「地域を元気にする持続可能なブランドのつくりかた」

講師：岩崎邦彦（静岡県立大学経営情報学部・教授）

② 9/30（金）「温泉に見るSDGsとウィズコロナ」

講師：斉藤正樹（東海大学人文学部・教授）

③ 10/14（金）「With コロナ時代のテレワーク：働き方・生き方改革から社会改革へ」

講師：小豆川裕子（常葉大学経営学部・教授）

④ 10/28（金）「持続可能な観光－ウィズコロナ時代の観光と地域振興」

講師：毛利康秀（静岡英和学院大学人間社会学部・准教授）

⑤ 11/18（金）「SDGsとウィズコロナ：今、化学ができること」

講師：鳴海哲夫（静岡大学工学部・准教授）

⑥ 12/7（金）「人間の五感による評価からICTを駆使してモノ作りを考える」

講師：櫻井将人（静岡理工科大学情報学部・准教授）

・受講料：無料

・参加者：会場 延べ96人、オンライン 延べ109人

・主催：静岡英和大学、静岡県立大学、静岡大学、静岡理工科大学、東海大学、常葉大学、静岡市

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。2022年度後学期市民開放授業については、対面で授業を行う科目のみ実施し、開講科目は6科目、受講者数は25人でした。

2022年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

阿部 耕也 地域創造教育センター長
江口 昌克 地域創造学環部門長
山本 隆太 地域人材育成・プロジェクト部門長
川崎 和也 地域創造教育センター特任助教
笠井 仁 人文社会科学部教授
渋谷かさね 教育学部准教授
遊橋 裕泰 情報学部教授
富田 誠 理学部教授
戸田三津夫 工学部准教授

江草 智弘 農学部助教
水谷 洋一 地域創造学環教授
山本好比古 大学教育センター准教授
小形 徳応 学務部長（兼）地域連携推進課長

地域と大学 第46号

発行日——2023年3月23日

発行——静岡大学地域創造教育センター

編集——上田 満津子

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
（事務局別館2階）

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

（事務局）学務部地域連携推進課 ☎ 054-238-4056